公益財団法人豊田市文化振興財団

第８期　令和８年度　第１回青少年育成委員会

日時　令和８年５月１７日（日）午前１０時から
会場　豊田産業文化センター　１Ｆ多目的ホール

次　　第

１　主催者あいさつ

２　議題

（１）前回会議録の確認
（２）令和７年度　事業報告について
（３）令和８年度　事業計画について
（４）令和８年度　モニタリング事業について
（５）令和８年度　豊田市文化振興財団表彰について

３　その他

（１）令和８年度第２回青少年育成委員会の日程について

【候補日・時間】　９月１９日（土）　午前１０時／午後２時
９月２０日（日）　午前１０時／午後２時
９月２６日（土）　午前１０時／午後２時
９月２７日（日）　午前１０時／午後２時
１０月　３日（土）　午前１０時／午後２時
１０月　４日（日）　午前１０時／午後２時

会場／青少年センター
内容／後期モニタリング事業・令和９年度事業計画（案）など

（２）施設からの諸連絡等

【目次】

議題（１）前回会議録の確認……別冊

議題（２）令和７年度　事業報告について……別冊

議題（３）令和８年度　事業計画について……別冊

議題（４）令和８年度　モニタリング事業について……別冊

議題（５）令和８年度　豊田市文化振興財団表彰
（青少年関係分）について……別冊

公益財団法人豊田市文化振興財団　第８期　青少年育成委員会

令和８年４月１日現在

【委員】（五十音順）

区分	氏　　名	役職・所属	備考
学識経験者	宇井　一弘	豊田市教育研究会 理科部会長	
	大村　恵	愛知教育大学 特別教授	委員長
	白川　陽一	名城大学社会連携センターPLAT 社会連携アドバイザー	
	西本　昌司	愛知大学　教授	
市民代表	斉藤　茂美	ボーイスカウト豊田地区協議会 地区委員長	副委員長
	野畑　清敬	愛知県キャンプ協会　理事	
	稗田（ひえだ）　猛	青少年育成　市民団体	

（委員７名／任期：令和９年３月末まで）

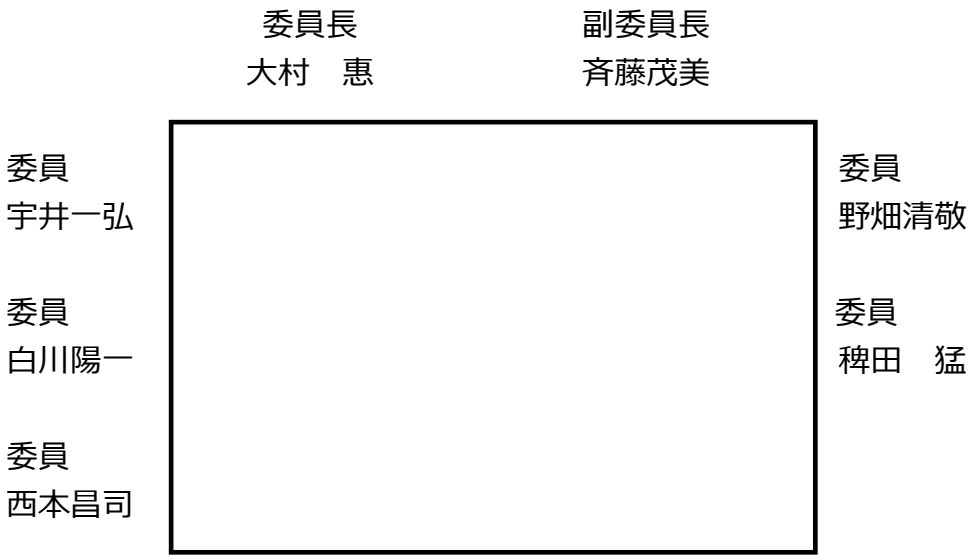
【オブザーバー】

近藤　啓史	豊田市こども・若者部　こども・若者政策課	課長
藤田　憲彦	豊田市魅力創造部　学び体験推進課	課長
杉山　基明	公益財団法人豊田市文化振興財団	副理事長
藤本　聡	公益財団法人豊田市文化振興財団	専務理事

【事務局】

永坂　正和	公益財団法人豊田市文化振興財団青少年部	部長
近藤　雅子	青少年センター	所長
江坂　秀晃	青少年センター	係長
山中　浩之	総合野外センター	所長
山村　聡志	総合野外センター	副所長
荘田　元宣	産業文化センター	所長
中根　史義	産業文化センター	副所長
水野　路子	産業文化センター	係長

【着座表】（敬称略）



オブザーバー

専務理事	副理事長	こども・若者政策課長	学び体験推進課長
藤本　聡	杉山基明	近藤啓史	藤田憲彦

事務局

青少年部長	青少年センター	総合野外センター	産業文化センター
部長 永坂正和	所長 近藤雅子	所長 山中浩之	所長 荘田元宣
	係長 江坂秀晃	副所長 山村聡志	副所長 中根史義
			係長 水野路子

議題（１）

令和７年度　第３回青少年育成委員会　会議録

１　日　時　令和８年２月 21 日（土）午前 10 時～午前 11 時 45 分

２　会　場　豊田市青少年センター　交流室

３　出席者　委員／大村惠（委員長）、斎藤茂美（副委員長）、野畑清敬、宇井一弘、西本昌司、稗田猛
白川陽一（欠席）
（敬称略）オブザーバー／近藤啓史、藤田憲彦、杉山基明、藤本聡
事務局／永坂正和、近藤雅子、荘田元宣、山中浩之、中根史義、山村聡志、松浦友洋、
水野路子

４　内容　　司会により、以下のとおり進行した。

（１）会の成立
委員７名中６名の出席を得て、委員会規則第６条第１項に基づき、委員会の成立を報告した。

（２）主催者あいさつ
杉山副理事長があいさつをした。

これ以降、大村委員長が議事を進行した。

（３）議事
①議事１　青少年育成委委員会　前回の会議録について
●事務局より説明。資料：議題１
会議録については、ホームページで公開予定。
公開にあたっては①発言した委員の氏名は記載しない、②会議の内容は要約表記とする、③事務局説明や事業の内容に関係ない発言に関しては記載しない、④会議資料は基本的に掲載とするが、モニタリングに関する資料は掲載しない、⑤個人団体及び施設等、名称が特定されて支障があるものについては、内容によって公表するかを委員と協議して配慮する。
以上の５点に配慮する形で掲載する。この要件を踏まえながら、配布した会議録について、自身の発言内容について、加筆・修正等があったら申し出てほしい。

議事１について、意見・質問は無かった。

②議事２　令和７年度モニタリング事業評価（後期分）について
●青少年部について事務局より説明。
各施設から事業の簡単な説明と報告を行った後、事業評価書の説明を行った。

●青少年センターについて事務局より説明と報告。資料：議題２ P2～９

（委員）

『**活動支援事業　日本トップの筋肉　伊吹主税がやってくる！**』について、事業評価の説明があった。多くの女性や青少年の参加が見られ、開始 30 分前には満席となった。終盤には立ち見を含め 100 名ほどいたように思う。

運営スタッフは、スケジュールどおり滞りなく進行していた。

プログラムの内容は、学習、憧れ、体験、記憶を配慮した内容であった。

予算については最小限で賄い、出演料は交通費と些少であったと聞いた。

青少年センターは「世界と繋がる場所である」という記憶と記録を充分発揮し「幅広い世代への認知拡大」「青少年センターの有効活用」「質の高い体験機会の提供」がなされた事業であった。

（委員）

利用者から声が挙がって実現した事業であると事務局より説明があったが、フィジークの取組みをしたいという相談があったのか。

（事務局）

昨年、4 階の軽運動室を個人利用していた若者に職員が声がけを行い、自らが取り組んでいるフィジークのイベントをサロンで開催した。その後、若者から再度相談があり、日本のトップクラスである伊吹氏を招いて開催の運びとなった。

（委員）

予算的には無理はなかったのか。

（事務局）

問題なかった。

（委員）

個人で活動している青年の声を広げていく非常に良い取組みであると感じる。是非そのプロセスも利用者に知らせて頂けるとよい。

（委員）

『**サークル・グループ文化祭**』について事業説明があった。

事前の準備のヒアリングを含め、利用団体の成果発表や PR、地域に青少年の拠点であることを周知して頂く事業としてよい企画であった。

毎年、事務局の努力もあって新しいグループの参加がある一方で当日は、出演者等の関係者の来場者が多く感じる。

職員が裏方となり、運営がスムーズに行えているが、開始と終了のメリハリがないことが気になる。最後の菓子まきは盛り上がっていたが、サロンでは危険性を危惧した。

小ホールのステージは賑わっていたが、多目的ホールは参加者が流れ込む工夫が必要である。

地域への回覧版などで PR していくことも一つの方法ではないかと思う。

（委員）

『**サークル・グループ文化祭**』について事業説明があった。

利用団体が発表できる貴重な事業である。ステージ企画は非常に盛り上がりを見せ、見ごたえがあった。一方でブース参加が少なかったように感じる。4 階の軽音楽室で実施されたドラムの体験教室は参加が少なく、1 階と 4 階の連携については課題が残る。4 階での取り組みがもう少し

あればよかった。青年スタッフがあらゆる面で頑張っていた。

活動紹介という点ではブース参加グループはもう少し詳しくポスター展示などで活動を PR するような工夫があるといい。

菓子まき後は主催者あいさつや、実行委員会など青年達の声が聞こえる場があるとよかった。

（委員）

運営サイドの人数は足りていたのか。

（事務局）

参加団体の中から受付などを出してもらい、不足したところは青少年センター事業の高校生ボランティアスクールの受講生がコース外活動として参加した。

（委員）

自身も青少年団体や育成団体のような活動に関わっているので協力もできた。ブース出展もできるので声掛けをしてほしい。

（事務局）

是非、お願いしたい。

●野外センターについてはモニタリング評価なし。

●産業文化センターについて事務局より説明と報告。資料：議題２ Ｐ１０～２５

（委員）

『**いろいろプラスネタリウム②　上坂監督が語る月、火星、そしてその先へ**』について、事業評価の説明があった。

大阪万博での映像や、博物館での「深宇宙展」など関連づけて実施していたことは評価できる。

幅広い年齢層を対象にされていた半面、少し空席が目立っていたことは残念であったが、特異的な分野である為に仕方ない面もある。

スタッフは目立たずスマートに活動しており、参加者は心地よかったであろうと感じた。

司会のトークカ、上坂監督の語り、映像を通して「既に宇宙へ行ってしまった」ような参加者の感想を聞くと、企画が成功したことが窺える。

予算に関しては、少ないのではないかと危惧するが効率的に実施したことはすばらしい。

宇宙の分野はこれからの広がりをみせていく分野であり、豊田市ではトヨタ自動車との関わりも深い。今回のような関連づけした事業を展開することで、更なる来場者が多くなることを期待したい。

（委員）

『**いろいろプラスネタリウム②　上坂監督が語る月、火星、そしてその先へ**』について、事業評価の説明があった。

宇宙、天文分野では有名な上坂監督を招いた良い事業である。予算についてはやはり少なすぎるように感じる。謝礼が 25 万の内 18 万を占めており、他の館と比べても少なく、運営費が厳しいのではないかと感じた。

今回のような事業は、一般に対してもそうだが、職員の研修にもなる。プロ中のプロと企画を行

うことで、専門スタッフの育成や人脈の構築に繋がっていく。
内容は上坂監督と司会の掛け合いの方がよいトークショーになったのではないかと思う。

（委員）

質の高い企画であったと感じているが、参加者の割合で小中学生が少ないことは残念に思う。
何か分析はしているか。

（事務局）

１つは PR 不足であり、内容をもう少しうまく伝えることができればよかった。
その他としては、日曜の晴天が影響したこと、開催時間は午後 4 時であり、足を運ぶのには鈍い時間であったと考察する。

（委員）

学校へは PR しているのか。

（事務局）

科学館全体のちらしの中で PR しており、各学校へ 1 人ひとりに配布している。

（委員）

豊田市内はもう少し天文ファンが多かったような気もするが。

（委員）

日柄はどうであったか。

（事務局）

11 月は行楽シーズンも影響している。

（委員）

分野の狭い企画は SNS で発信することが自身の企画においても効果的であると分析している。
SNS を強化されたらいいのではないかと思う。

（委員）

アンケートでも SNS で知った方が多い。口コミで広がれば中学生も巻き込むことができる。

（委員）

アンケートでは愛知県外の方が 11 名見えるが、上坂監督のファンなのか。

（事務局）

そうである。長崎県からの参加者も見受けられた。

（委員）

30 代から 60 代の方が多いのはそういったことか。別の事業では県外は少ない。
このような方を招いた事業展開をどんどん実施した方がいいのか。

（事務局）

プログラムでは、実際の万博の映像を上映したが、その際にその映像をプラネタリウム化する話がでた。アンケートではその映像を見たいという意見が多かったことからも検討していきたい。

（委員）

『**ものづくりワークショップ（内部講師）繭ランタンを作って光らせよう**』について、事業評価の説明があった。
繭を使用した命の尊さを感じとれる内容で、親子で参加することはコミュニケーションにも役立っている。応募数は実際の 12 組の 3 倍ほどあったと伺った。しかし、現状のスペースの問題、

材料の調達、サポート体制を考えると適正であった。

終了後に行われた「点灯式」は産文のイルミネーションと合わさり、自分たちが作った作品を同時に点灯させたことで、参加者の満足度は高かったように感じる。

今回は、繭に関連する職員が携わったことでできた企画と聞いた。職員が専門分野を活かせるような人事配置を願いたい。

（委員）

何故、繭をつかったのか。

（事務局）

産業文化センターはかつて、養蚕工場「加茂蚕糸」の跡地であったことに紐づけした。

（事務局）

豊田市が車産業の前は、養蚕業が中心であった。

（委員）

報告の中で繭関連での繋がりがあってできた企画とあったがどういうことか。

（事務局）

内部講師の職員が以前「くらし発見館」の職員として養蚕のワークショップに携わっていたため、作品制作の前に歴史などについてお話をした。

（事務局）

その職員を中心として材料の調達も行い、外部的にも繋がりができた。

（委員）

『**いろいろプラスネタリウム③　ほろよいプラネタリウム**』について、事業評価の説明があった。

新しい試みで、十年後の日本においても観測できる皆既日食のテーマは、タイムリーな話題としてよかった。ワインを提供することには賛否あるが、こども向けの事業があるなら大人向けの事業もありと感じる。

飲料を提供する際の時間のロスが課題として見受けられた。初めての試みであったので致し方ないところではある。飲食を伴うことは大変であり、予算の課題もあるが外部に全て（対応も含めて）発注できれば効率的にできたのではないかと感じた。当日は座席型式であったが、立食形式であれば会話が弾んだとも考えられる。いろいろと試していただければと思う。

（委員）

『**いろいろプラスネタリウム③　ほろよいプラネタリウム**』について、事業評価の説明があった。

本事業は財団の存在意義を感じる企画であった。市直営ではこのような飲食を伴う企画は難しいと感じる。財団が存在しているおかげで柔軟な運営ができているからこそである。

また、財団に専門性のある職員がいるからこそ、外部の専門的な方との繋がりができる。行政職のような配置転換のない専門性が担保できることも大切なことである。今回の企画でとても強く感じた。今後もトライ＆エラーで豊田市らしい名物企画を展開してほしい。

（委員）

先ほどのモニタリング（いろいろプラスネタリウム①）ではチラシの効果が薄いのではという

発言があったが、こちらでは 20 パーセント以上がチラシや広報となっている。SNS や HP は 10 パーセント以下である。これは面白い。大人向け企画ではチラシ等の効果がある。
また体験館へ来ているリピーターも多い。来年も実施して頂きたい企画である。

（委員）

飲食を伴う企画は初めてであったが、ガイドライン等はあるか。

（事務局）

まずプラネタリウム内では清掃面を鑑みて、飲食は禁止とさせていただいている。

（事務局）

1 年かけて企画を立案してきた中で、プラネタリウム内での飲食も検討した。しかし、プラネタリウムでは通常でも画面酔いする利用者がいる。普段の投映前にも注意喚起をしており、今回はお酒が入ることで画面酔いが更に増すことを懸念して、多目的ホールに移動しての飲食とした。

（委員）

他の施設でもこのようなチャレンジングな企画を立案してほしい。

③議事 3　令和 8 年度青少年部事業計画（案）について

●事務局より、青少年部全体の基本方針の説明を行った。

●各施設が資料に基づき説明を行った。

《青少年センター事業についての質問と意見》

（委員）

サロンカフェの話があったが、どの事業に該当するのか。

（事務局）

自立支援、若者応援事業に該当する。

（委員）

そうすると延べ 300 人は少ないのではないか。

（事務局）

予算の段階での人数となっており、実際はもう少し多い。サロンカフェは隔週を想定している。あくまでもサロンを設けることが目的ではなく、若者の居場所づくりと新たな出会いづくりが目的である。

（委員）

青少年育成アドバイザーとしてサロンを年 2 回利用している。その際、高校生ボランティアスクール登録の受講生を派遣していただいているがそこも入っているのか。

（事務局）

入っていない。運営スタッフは大学生を想定している。

（委員）

高校生に聞くと、小さい子と接する貴重な機会があって楽しかったという意見がある。
大学生になっても機会があるといい。

（委員）

基本方針の中で多文化共生、共創社会について、それをテーマにしている事業はあるか。

（事務局）

各事業の中で取り組める事業があれば取り入れていく姿勢でいる。1 年かけて進化させる年としたい。事業名として現れるのは令和 9 年度以降となる。

（委員）

来年度は準備期間としても TIA（国際交流協会）などへ集ってきた人たちが、青少年センターの事業に関わっていくような仕掛けを考えて頂きたい。また、障害をもった青年の参加についてもソフト事業での取組みをお願いしたい。

《総合野外センター事業についての質問と意見》

（委員）

前期のモニタリングで野外センターにいった際、交通の不便さを感じた。事業の際は送迎などを考えてほしい。あと、事業の参加年齢の幅を広げて頂いたことは良いことである。大人の企画があれば、その大人が子どもを連れてくるような取組みにも繋がる。

（事務局）

事業ではバスの送迎を行っている。

（委員）

先日、山の子学級のモニタリングをさせていただいた。継続して参加できることは子どもの集団もできる。活動の展開も可能性がでてくる。大学生のスタッフが、小学校 4 年生から参加しており、12 年もの間、関係性をもっている。そういう方を増やして頂きたい。

乳幼児の事業については、かなりニーズがあると認識している。音楽会や絵本というよりも、野外活動をやっていくことでもいいのかと思う。また、同じような活動を行っている市民との連携も考えて頂きたい。

《産業文化センター事業についての質問と意見》

（委員）

「二十歳のつどい」の催しの際、外国にルーツのある方に対して晴着の貸出しや着付けを行っている自治体があり、今年は東京の豊島区が行っていた。TIA（国際交流協会）と共催していくとあったが、交流することで日本の伝統文化を伝え親しんでいく機会の提供にもなる。そのような試みは行ってきたのか。

（事務局）

喜楽亭の茶会を TIA（国際交流協会）に訪れる外国ルーツのある方が日本茶を楽しんで貰えるよう、時期を含め開催した。その際に別に着付け体験を同時に開催した例はある。

（委員）

機会があればまた検討して頂きたい。豊島区が話題になったのは、外国にルーツのある方以外にも、生活困窮者の青年にも支援をした。「二十歳のつどい」をその様な交流の場にして頂けるよう検討してほしい。

（委員）

意見も無いようなので、今後のスケジュールについて事務局よりお願いしたい。

（事務局）

今後のスケジュールについて、豊田市からの受託事業については３月議会にて承認の後、確定する運びである。また、豊田市文化振興財団の理事会が３月 19 日に開催される。そこでこの事業計画案が全て承認されて確定となる。

従って、来年度のモニタリング事業については、来年度の第１回目にご希望を伺うことになる。

④議事４　令和８年度第１回青少年育成委員会の日程について

●調整の結果「令和８年５月１７日（日）午前１０時」に決定した。

⑤議事５　施設からの諸連絡

（オブザーバー）

前回の会議で、産業文化センターが延命化工事で改修する旨の発言をしたが、後日確認したら延命化の候補には挙がっているが、現状何年度に実施するのかは言えないという事実が明らかになったので訂正させて頂きたい。

以上

議題（２）

公益財団法人豊田市文化振興財団

令和７年度　事業報告書（青少年部抜粋版）

１　総括

１　青少年の健全な育成の推進

（１）「第３次公益経営戦略ビジョン」の重点取組施策である「育成段階に応じた事業展開」、「多様な主体との共働の推進」及び「活躍機会の提供」を推進し、青少年の健全育成に取り組みました。

　また、豊田市が取り組んでいるＳＤＧｓの目標達成及びユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業（ＣＦＣＩ）の取組みを意識した事業展開を図りました。更に、コロナ禍前の賑わいに戻りつつある状況の中、安全安心な施設運営と積極的な事業展開を図りました。

（２）青少年センターでは、若者の育成段階に応じた事業体系において「若者の社会参加の促進」、「若者の自立支援」、「居場所づくり」及び「情報発信」の４本柱の事業を推進し、意欲ある若者の活躍をサポートしました。また、活動の機会を求める若者の要望に応えるため、１階サロンを、若者の活動発表・作品展示の場として多彩なジャンルのイベントに積極的に活用しました。

（３）総合野外センターでは、豊田市子ども条例で子どもが豊かに育つ権利として自然に親しむことが保障されていることを特に意識して、六所山とその周辺の自然環境の中での野外活動を通し、遊び、学び、体験の機会と場を提供して、青少年の健全な育成と指導者の技量向上支援に努めました。そのために山遊び初心者から冒険少年まで、それぞれの“わくわく”を満たす事業を実施しました。

（４）産業文化センター（とよた科学体験館）では、どなたでも気軽に施設へアクセスできるよう、様々な取組により施設への親しみを感じていただく機会提供を推進する「コモンズ　プロジェクト」を実施しました。また、今後の大規模修繕や改修について、市と連携を密にして、市民や関係者にとってよりよい施設運営につながるよう進めました。

２　事業報告

（１）青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業（定款第４条第５号事業）

　子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化する中、青少年の健全な育成を図るためには、家庭、学校及び地域社会が連携を密にし、子どもたちの自立と社会参加を促す努力を重ねることが求められています。青少年育成施設等を活用して青少年の健やかな成長を育むため、様々な体験活動を実施し、あわせて自立支援・相談体制を強化し、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供しました。

●青少年の健全育成を図るための機会の提供を行う事業

事業数　６４事業

若者によるまちづくり提案事業 WAKATTE、サークル・グループ文化祭、社会

参加バンク、活動支援事業、若者応援事業、種まき事業　ほか（青少年センター）
六所でキャンプ、チャレンジキャンプ、六所であそぼう、親子自然体験塾、山の子学級、小中学校等野外活動直接指導　ほか（総合野外センター）
いろいろプラスネタリウム、発見科学コーナー、みんなで！サイエンスショー、科学ふらっときかく展　ほか（産業文化センター）

（２）青少年音楽団体の運営及び青少年団体に対する助言その他の支援を行う事業（定款第４条第６号事業）

青少年の健やかな成長を育むため、豊田市青少年音楽３団体、子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウトなどの青少年団体の運営を側面的に支援し、活動の活性化をサポートしました。

●青少年団体の育成支援を行う事業

事業数　３事業

豊田市青少年団体傷害互助会事業（青少年センター）
レクリエーション団体指導者派遣（青少年センター）
子ども会事務支援（青少年センター）

３　会議

青少年育成委員会

名　称	期　日	会　場	内　　容
第１回 青少年育成 委員会	５月１１日	青少年センター 会議室Ａ	令和６年度事業報告について 令和７年度事業計画について 令和７年度モニタリング事業について 令和７年度青少年表彰について　ほか
第２回 青少年育成 委員会	１０月１１日		令和８年度事業計画について 令和７年度モニタリング事業評価について ほか
第３回 青少年育成 委員会	２月２１日		令和７年度モニタリング事業の評価について 令和８年度事業計画について　ほか

４　令和７年度事業報告の附属明細書
【青少年センター】

外部団体や民間事業者との共働など、これまで培ってきた当センターのネットワークを駆使し、様々なステークホルダーや豊田市の部署等と連携を強化することで、若者支援のハブ機能を担う施設を目指し、若者の成長を応援しました。

事業面では、育成段階に応じた事業展開を意識し、若者の社会参加や課題解決に向けた取組を支援し、若者や活動団体の積極的な自主活動を促進しました。

また青少年育成委員会の事業評価や利用者、参加者及び社会的な各ニーズ並びに SDGs の達成目標を意識した施設運営に努めました。他県、他市の先進的な施設と積極的に交流を行い、当センター全体のレベルアップを図りました。

（１）事業

「若者の社会参加の促進」、「若者の自立支援」、「居場所づくり」、「情報発信」の４本の柱を中心に事業を実施しました。

ア 「若者の社会参加の促進」
意欲段階に応じ、若者が社会に接する機会の創出を行いました。

イ 「若者の自立支援」
若者に取り巻く社会課題等に向かい、若者の社会的自立を促しました。

ウ 「居場所づくり」
若者に関する様々な講座等を実施し、青少年センターを居場所とする、若者を増やしました。

エ 「情報発信」
ボランティアの募集や各種イベント・事業・フリー開放（空き部屋活用）など、若者に有益な情報を SNS 及びホームページを使って配信しました。

（２）施設運営

自主定期点検マニュアルに基づいた施設管理をはじめ、公共施設に必要な訓練の実施、利用者ニーズを把握する利用者懇談会・アンケートの実施等、常に安全・安心・快適な利用環境の提供を目指し、効率的な管理運営でサービスの向上に努めました。また、災害や事故に備えた危機管理意識を持ち、異常の早期発見・早期対処など予防保全に努めるなど、日常管理の積み重ねを安定的で使いやすい施設運営につなげました。

（3）事業一覧

※事業区分について：自主－当財団独自の事業、共催－豊田市との共催事業、
受託－豊田市等から委託を受けて実施する事業

【青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業】

事　業　名	期 日	人　数	内　容		事業区分
【社会参加】 インターンシップ事業	夏期・春期	延べ ２４人	豊田市及び近郊の高校・大学と連携し、就業体験等を通じて働くことや公共施設等への理解を深めるサポートを行った。	体験活動等	自主
【社会参加】 若者倶楽部	通年	302 人	大学生世代以上の若者が集まり、まちづくり等の社会参加型事業の担い手として活躍する機会を提供した。	講座、セミナー、育成	共催
【社会参加】 学生交流塾	通年	267 人	高校生以上の学生、生徒が学校や学年の垣根を越えて集い、柔軟な発想と軽快なフットワークとチームワークで「まちづくり」、「ボランティア」、「企業コラボ」等の活動を展開し、学生同士の交流を図った。	体験活動等	共催
【社会参加】 社会参加バンク	通年	登録者数 595 人	ボランティアや地域イベントのお手伝い等を希望する若者と若者の力を求める団体をつなぎ、若者の社会参加を促進した。	体験活動等	共催
【社会参加】 活動支援事業	通年	9,228 人	青少年団体、若者グループ、高校・大学のゼミ活動・クラブ活動等で、サロン等を活用して自己表現する機会を提供した。	体験活動等	共催
【自立支援】 若者応援事業	通年	236 人	未婚晩婚化やキャリア教育等若者の社会的課題の解決を図り、自立を促す事業を実施した。また、企業と若者をつなげるキャリア教育も取り入れた。	講座、セミナー、育成	共催
【情報発信】 とよた若者応援ネット『プラス』	通年	―	LINE を活用した個人登録者の登録データと SNS を活用し、イベント情報、ボランティア情報、婚活情報等、青少年に有益な情報を数多く配信した。	その他	共催
【社会参加】 若者によるまちづくり提案事業「WAKATTE」	5月～2月	―	豊田市の活性化や魅力発信に関する事業等の提案を募集した。審査を行い、提案実施支援金 50 万円を上限に提案を採択した。	体験活動等	共催

【社会参加】 高校生 ボランティアスクール	5月～3月	延べ 854 人	市内高校と連携し、高校生がボランティア活動を行う機会を提供し、高校生の社会参加を促した。	講座、セミナー、育成	共催
【社会参加】 学生によるまちづくり提案事業	6月～2月	延べ 543 人	学生がまちづくりに関する考え方や手法を学び、企画提案から実現への取組を伴走支援した。	講座、セミナー、育成	共催
【居場所づくり】 種まき事業	年3回 6月１５日 8月２３日 １２月１４日	延べ ６４人	仲間づくり等若者に関する様々な講座・イベントを開催し、青少年センターを活動拠点としてPRした。	講座、セミナー、育成	共催
【社会参加】 サークル・グループ文化祭	1月１８日	1,629 人	青少年団体で組織する実行委員会が企画運営し、日頃の活動を広く市民へＰＲし、新規団体及び新メンバーの獲得につなげる機会とした。また、近隣大学・高校等の若者に広く参加を呼びかけ、利用促進の機会とした。	体験活動等	共催
【自立支援】 若者未来塾（若者・外国人未来応援事業）	通年 毎週水金曜 隔週土曜	延べ 843 人	学力格差による貧困の解消につなげるための学習支援事業。 高等学校卒業程度認定取得を目指した支援を行うとともに、成績不振の中高校生への支援も行った。	講座、セミナー、育成	受託
【居場所づくり】 学習・卓球等若者開放事業	通年	13,655 人	青少年に居場所を提供する事業。 空き室を自主学習や音楽・ダンス・演劇等の自主練習、仲間同士の親睦の場として活用するほか、定期的に卓球器具の貸出し（卓球開放）を行い、憩いの機会を提供した。	施設の貸与	受託

【青少年音楽団体の運営及び青少年団体に対する助言その他の支援を行う事業】

事　業　名	期 日	人　数	内　　容		事業区分
豊田市青少年団体傷害互助会事業	通年	―	豊田市内の青少年団体の活動を支援するための互助会組織。 団体活動中に不慮の事故に遭いけがを負った場合の傷害見舞金の支給。被保険者の過失による活動中の死傷事故及び第三者の財物の損害に対する賠償保険金の支給事業を実施した。 ※会員 17,518 人	その他	自主

豊田市文化振興財団 大会（青少年表彰）	6月1日	―	青少年健全育成において優れた業績をあげた団体及び功労者を称え表彰した。 青少年育成功労賞、青少年育成奨励賞	その他	自主
レクリエーション 団体指導者派遣	通年	―	①レクリエーション指導者団体の情報交換（定例会）を行うとともに、子ども会等へ指導者を派遣し活動支援を行った。 ②青少年サークルをふれあいまつり等地域行事に派遣し、地域活動に若者の力を導入した。 ※①②計 66 人	相談･助言	共催
子ども会事務支援	通年	―	豊田市子ども会育成連絡協議会の事務局として運営を支援し、子ども会活動の活性化に寄与した。	相談･助言	受託

合　計

事　業　総　合　計	１８事業	２８，２４０人	

（4）利用実績

青少年センター

施　設　名	件　数	人　数	利　用　内　容
会議室・音楽室 ・軽運動室 等	７，５１０	７４，５０８	会議・研修・バンド練習・ダンス 等

その他

施　設　名	件　数	人　数	利　用　内　容
サロン・若者ルーム 等	―	３６，４０５	たまり場等

総合計

総　合　計	７，５１０	１１０，９１３	

【総合野外センター】

六所山とその周辺の自然環境の中で、キャンプ、ハイキングそして自然観察などの野外活動を通し、遊び、学び、体験の機会と場を提供して、青少年の健全な育成と指導者の技量向上支援に努めました。

小中学校、青少年団体をはじめ、家族や小グループにも気軽に六所の自然に親しむことができるよう、わかりやすく、安全で使いやすい施設を整備し、安心と達成感そして幸福感のある施設利用を提供しました。

また、令和６年の豊田市青少年育成施設条例改正により、青少年団体や家族利用ができるようになりました。これまでの団体利用の継続と、新たな利用拡大を推進しました。

（１）事業

この施設の活動に精通した所員による事前打合せや直接指導を通して、教育課程に基づく小中学校の利用や、こども園、子ども会等の利用に込めた目的の達成を支援しました。

野外活動を通して自然環境と向き合うことで､それを理解して｢自然との共生｣の大切さを感じる体験と、そこにある困難に仲間と協力して対処し「生きる力」を身に付ける体験を実施しました。山遊び初心者から冒険少年まで、それぞれの“わくわく”を満たす事業展開をしました。

（２）施設運営

近年問題となっている熱中症や従来からある野外活動の危険要素により施設利用をためらうケースが増加しています。これらのマイナス要因への適切な対処を提案し、安心して施設を利用できる環境を整えました。

自然災害や老朽化により、利用障害となる施設設備の営繕や保全作業に努め、安全で快適な施設利用を担保して、利用者の活動目的達成に貢献しました。

子ども、大人、障がいのある方、外国から来られた方等、あらゆる人が安心して楽しく利用できる施設を目指しました。

市の所管課をはじめ関連する主体との連携を密にし、“安全”、“安心”な野外活動施設を提供します。また、これら関連主体や利用団体の意見を取り入れ、負担が少なく、より効果的な活動プログラムの開発・提案と、施設の更なる有効活用を進めました。

（3）事業一覧

※事業区分について：自主－当財団独自の事業、共催－豊田市との共催事業、
受託－豊田市から委託を受けて実施する事業

【青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業】

事　業　名	期 日	人　数	内　　容		事業区分
体験学習講座 支援事業	実施なし		野外センターの自然や里山環境を活かした体験活動型の講座、研修会をサポートする。	体験活動等	自主
大学連携事業	9月14日～15日 9月24日～25日	3人 3人	自然体験活動や社会教育士資格取得を目指す大学生の実習(県内の大学と共同事業)をサポートする。また実習で大学生が企画したイベントを、大学と共同開催した。	体験活動等	自主
アドベンチャー in 六所	10月13日	２９人	中日文化センターとの連携事業。アドベンチャーレーサー「田中正人」氏を迎え、ロッククライミングなどの体験会を行った。	講座、セミナー、育成	自主
アウトリーチ講座 応援アウトドア	実施なし		当センターのプログラムやノウハウを使ったミニ野外活動体験会や講座などに、職員を講師として派遣する。	体験活動等	共催
野外活動体験塾	8月5日 11月12日 11月26日	子ども食堂龍の子　43人 りっぽ　6人 たきびをかこむ会　6人	不登校やひきこもり、障がいのある青少年の支援団体や保護者グループの野外活動を支援した。	体験活動等	共催
六所であそぼう	４月２９日 １０月２６日 ２月１１日 ２月２８日	１６７人	小学校低中学年を対象とした日帰り自然体験事業を実施。自然の中での遊びを通して、野外活動に親しむ感覚を育んだ。	体験活動等	共催
六所でキャンプ	5月3日～5日 9月２０日～２１日 １２月6日～7日	１０５人	小学校中学年から中学生までを対象とした、宿泊の自然体験事業。キャンプ体験を通して野外活動の楽しさや難しさに向き合いながら、自主性や協調性を育んだ。	体験活動等	共催
親子自然体験塾	7月5日～6日 １２月２０日～２１日	７２人	自然体験を深めたい家族を対象とした事業。「自然」や「里山」をテーマにしたアクティビティを通じて、感動や喜びを共有し、家族のきずなを深めた。	体験活動等	共催

チャレンジキャンプ	8月14日～18日	３５人	小学校中学年から中学生に向けた、ステップアップ事業。長期キャンプで、仲間や困難とじっくり向き合う時間を創出。連帯感や達成感を味わうことにより、忍耐力と自己肯定感を育んだ。	体験活動等	共催
Enjoy!　アウトドア	１０月１６日	４人	中学・高校生を対象とした、日帰り自然体験事業。アウトドアを楽しむ機会や仲間との出会いを提供する。キャンプスタッフとの世代交流を図った。	体験活動等	共催
山の子学級	1月17日～18日 2月14日～15日 3月7日～8日	１０８人	小学校中学年から中学生に向けたレベルアップ事業。仲間との継続的な活動、長期スパンを活かした計画により、自ら考える時間を創出。仲間や自然への愛着、野外活動の企画や運営などへの興味の芽生えを育んだ。	体験活動等	共催
高校生ボランティアスクール	６月～1月 ９回実施	６３人	青少年センター事業「高校生ボランティアスクール」の野外センターコースを実施する。キャンプ場の仕事を体験する場を提供した。	講座、セミナー、育成	共催
森の音楽会 ・森と絵本	１０月１８日 １１月3日	８５人	自然体験への導入事業。「自然」をテーマにした音楽会や絵本の読み聞かせと、会場となる環境の相乗効果により、五感を刺激。豊かな感性を育んだ。	体験活動等	共催
六所山 キャンプクラブ	8月2日～3日 3月21日～22日	２６人	中学生から大学生までを対象に、野外活動の継続を期待する声に応える事業。希望者でグループを作り、キャンプを計画。技術の向上や指導者養成の入門編として実施した。	講座、セミナー、育成	共催
キャンプスタッフ プログラム研修会	8月5日 8月１７日	15人	共催事業のサポートをする大学生を対象に、特に安全面を重視した事前研修を行った。	講座、セミナー、育成	共催
キャンプスタッフ トレーニング キャンプ	5月10日～11日 7月12日～13日 9月7日 １０月5日 1月10日～11日	１１７人	キャンプスタッフに必要な知識や技能を獲得するとともに、野外活動に対する意欲向上を図る。また、キャンプスタッフ間の連携を深めた。	講座、セミナー、育成	共催
キャンプ インストラクター 養成講習会	2月２１日～ ２３日	１３人	愛知県キャンプ協会と連携して野外活動の基礎的な知識や技能の実践的な講習を行い、野外活動を支援する指導者を養成した。	講座、セミナー、育成	共催

小中学校等 野外活動直接指導	通年	9,８１５人	こども園、小中学校、青少年団体等の活動支援として、専門知識を有した職員が直接指導を行った。	体験活動等	受託

合　計

事　業　総　合　計	１８事業	１０，７１５人	

（４）利用報告

施　　設　　名	件　数	人　数	利　用　内　容
自然の家	１２０	６，８３０	宿泊研修等
キャンプ場	３０２	１８，０９５	野外活動等
運動広場	１０	４，１９０	軽スポーツ等
資料館	１４	５９９	動植物標本・民芸資料の展示
多目的ホール	３７	２，１３４	軽スポーツ･雨天時等の活動等
研修室	１３	８１６	軽スポーツ･雨天時等の活動等
計	４９６	３３，４７４	

【産業文化センター（とよた科学体験館及び喜楽亭を含む）】

市民の心の豊かさや幸福の追求と合理的配慮の視点を取り入れ、あらゆる市民に開かれた施設を目指しました。また、文化活動や中心市街地活性化に向けた取組などの多様な利用者ニーズに対応し、多機能な複合施設としての特色を踏まえた施設運営を行いました。

施設面では長寿命化改修工事に向けて、市との調整を緊密に取り組みました。更に建築物等適正管理マニュアルに基づく自主点検を定期的に実施し、不具合箇所の早期発見、早期対応に努め、「安全」・「安心」・「快適」な施設の提供に注力しました。

とよた科学体験館は、市の科学教育を担う中心施設として、幼児から青少年や高齢者までの多様な市民が気軽に科学に触れる機会拡充に努めました。教育的な事業のみならず、こどもの声を聴き、皆が体験することによって、誰もが新しい発見と驚きに出会い、日常の中で科学を楽しめる喜びの創出に取り組みました。

また、文化的建造物（国の登録有形文化財）である喜楽亭では、施設の特徴を生かした文化・伝統行事体験事業を実施しました。

（１）事業

新規事業として、産業文化センター・科学体験館・喜楽亭へ、どなたでも気軽に施設へアクセスできるよう、館内の掲示物や配布物、事業チラシ等の優しい日本語化や多言語化、合理的配慮の他、様々な取組により施設への親しみを感じていただく機会提供を推進する「コモンズ　プロジェクト」を実施しました。

科学体験館では、天文・サイエンス・ものづくり事業において、市民ニーズを考慮した多種多様な事業展開を図りました。

天文事業では、幅広い年代が楽しめる特別プログラムとして「いろいろプラスネタリウム」などの開催により、新たな顧客開拓とリピーターの獲得に努めました。

サイエンス事業では、最先端科学や注目度の高い分野の講師を招く「サイエンスセミナー」、地元企業の科学技術などを体験するワークショップ「レッツ・エンジョイ・サイエンス」を開催し、次世代を担うこども達がサイエンスやものづくりへの好奇心、モチベーションを向上させる機会を提供しました。

喜楽亭では、施設の特性を活かした「喜楽亭茶会」を開催し、市民の文化体験の機会を提供するとともに、文化的建造物の認知を高めました。

（２）施設運営

長寿命化改修工事に向けて、利用者の視点で市当局との調整に注力しました。また、複数の公共機能を有した複合施設の建物設備全体を包括的に維持管理し、管理経費の節減を図るとともに、施設全体の連絡会議を定期的に開催し、情報共有を図りました。更に中心市街地にある大型施設として、有料駐車場の管理や災害時の帰宅困難者対策への協力を行いました。

（3）事業一覧

※事業区分について：自主－当財団独自の事業、共催－豊田市との共催事業、
受託－豊田市から委託を受けて実施する事業

【青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業】

ア 科学体験館事業

事　業　名	期　日	人　数	内　　容		事業区分
【新規】 社会包摂推進事業 コモンズ プロジェクト （体験館・産文・喜楽亭）	通年	８６７人	科学体験館、産業文化センター、喜楽亭すべての業務を対象とし、館内の掲示物や配布物、事業チラシなどの優しい日本語化や多言語化、障がい者の事業参加への配慮、どなたでも気軽に来館できる機会の提供による創客を推進し、その成果を市民へ情報発信した。	体験活動等	自主
こども園アウトリーチ事業	通年	１，２２２人	こども園に出向き、園児に科学の不思議をショー形式で紹介した。実験を通して楽しみながら科学への興味を深めた。 ※５０人×１５園	体験活動等	自主
ミニワークショップ	通年	１７，９２９人	短時間でできる科学的要素を取り入れた簡単な工作教室を開催した。	体験活動等	自主
自然科学体験教室	９月２７日 ９月２８日	４３人	小学生親子を対象に、自然科学に対する知的好奇心や探求心を育むための宿泊観察教室を開催した。 ※親子１２組（１泊２日）	体験活動等	自主
ものづくりフェスタ２０２５	１０月１９日	２１９人	ものづくりフェスタ実行委員会主催のイベントに実行委員の派遣とブースの出展協力をした。	体験活動等	自主
プラネタリウム投映事業	通年	５４，２０４人	星空解説による本物の星空へのいざないと、迫力のある全天周シミュレーション映像体験を通じて天文や宇宙への興味・関心を深めた。一般・団体・学習などのニーズに対応した解説や全天周番組投映、シミュレーション映像投映を開催した。	体験活動等	受託
サイエンスショー	通年	２３，６８９人	一般・団体向けに、実験によって科学の原理を紹介する実験ショーを開催した。	体験活動等	受託
ワークショップ	通年	２３７人	主に小・中学生向けに科学やものづくりの楽しさを体験できる実験･工作教室を開催した。 ※２０人×１０回	講座、セミナー、育成	受託

サイエンススクール	通年	２８８人	中学・高校の科学部等を対象にした学習会を開催し、その成果発表の場として、サイエンスショー発表会（カーニバル）を開催した。	講座、セミナー、育成	受託
展示整備事業	通年	―	展示品の製作検討や既存の展示物の点検・修理を行うため、定期的に展示整備委員会を開催した。	体験活動等	受託
出前天体観測会	８月２９日 ９月５日 １０月２８日 １１月２８日 １２月２日 １月９日 ２月２８日	６５７人	小学校や交流館に出向き、天文の話や天体望遠鏡による観望会を開催した。 ※５０人×１０回 （申込は９件、内２回は天候不良のため中止）	体験活動等	受託
街中の星見会 「まちぼし」	４月５日 ８月１日 ８月３０日 １１月１日 １２月１３日 １月２４日 ２月２１日	５６２人	天体望遠鏡を使って街中でも気軽に観測できる月や惑星を見る観望会を開催した。 ※５０人×１０回 （３回は天候不良のため中止）	体験活動等	受託
サイエンスクラブ 初級コース	６月７日 ７月１２日 ９月９日 １１月１日 １２月２０日 １月２４日	２８８人	小学３・４年生向けに、年間を通して、科学全般に関する実験・科学工作の講座を開催した。 ※２４人×６回×２部 （午前・午後）	講座、セミナー、育成	受託
サイエンスクラブ 中級コース	６月１４日 ６月２８日 １０月１８日 １０月２５日 １１月２２日 １２月１３日	１４４人	小学５・６年生向けに、年間を通して、科学全般に関する科学実験を中心とした講座を開催した。 ※２４人×６回	講座、セミナー、育成	受託
アストロクラブ 初級コース	６月８日 ８月２日 ９月２１日 １１月１６日 １月１１日 ２月１５日	３０６人	小学校４年生から６年生までを対象にした天文教室。天文の基礎知識や星座の見付け方などを学ぶ講座を開催した。 ※５０人×６回	講座、セミナー、育成	受託
アストロクラブ 中級コース	６月１５日 ７月１３日 ９月１４日 １０月５日 １２月１４日 １月２５日	１４４人	小学校５年生から中学生までを対象にした天文教室。望遠鏡等の活用の仕方を通して、天文の楽しみ方を学ぶ講座を開催した。 ※２０人×６回	講座、セミナー、育成	受託
【新規】 科学ふらっときかく展	①７月６日～７月２０日 ②７月２２日～８月３１日 ③８月２３日～８月２	―	天文、サイエンス等に関する様々な資料を展示したり体験したりすることにより、気軽に科学に触れる機会を増やし関心を高めた。	体験活動等	受託

	４日 ④１１月１９日～１２月2日 ⑤１０月１８日～１１月１６日および１２月６日～１月１８日				
いろいろプラスネタリウム	5月１８日 １１月9日 １２月１２日	４２７人	プラネタリウムならではのテーマやタイムリーな話題を取り上げ、幅広い年代向けにライブ感を生かした特別投映を開催した。 ※１２０人×３回	体験活動等	受託
スペシャルサイエンスショー	5月5日 3月8日	４９９人	外部講師による特別イベントを開催した。 ※７０人×２回×２日	体験活動等	受託
発見科学コーナー	6月２２日 2月１４日	４８８人	常設展示より質の高い体験学習を開催した。体験館ならではの物や職員による専門的な解説で当館の魅力を発信した。	体験活動等	受託
みんなで！ サイエンスショー	6月２２日 1月２５日	３６２人	サイエンスショー後に、ステージで動きや反応を楽しむことができる体験学習を提供した。	体験活動等	受託
学習指導要領発展事業	7月5日	１２人	小学４年生から６年生までを対象に、理科の学習指導要領の理解をより深めるためのワークショップを開催した。	講座、セミナー、育成	受託
サイエンスセミナー	7月6日	８３人	「科学を文化として楽しもうプロジェクト」の一環として「全然知らなかった虫のこと-アリに飼われて 15 年目-」について専門家の黒木出氏を講師に招き、講演会を開催した。 （会場：小ホール）	講座、セミナー、育成	受託
親子天文教室	1月３１日	１１４人	親子を対象に季節の星空や宇宙の話題をわかりやすく紹介するイベントを開催した。	体験活動等	受託
プラネタリウムコンサート	１１月2日	２４５人	プラネタリウムの星空のもと、星座解説やプロの音楽家の生演奏のコンサートを開催した。 ※１２０人×２回	体験活動等	受託

レッツ・エンジョイ・サイエンス	9月２３日	３７人	「科学を文化として楽しもうプロジェクト」の一環として、県内企業の「セントラルトリニティ（株)」を講師に迎え、子どもから大人まで楽しめるワークショップを開催した。 （会場：多目的ホール）	体験活動等	受託
発展理科講座	8月9日	１２人	多くの年代の市民が参加できる理科実験を使ったワークショップを開催した。	体験活動等	受託

イ 喜楽亭事業

喜楽亭茶会	5月4日 １０月5日 ２月２８日	３４１人	茶友会と連携し、季節ごとに特色ある茶会や子どもによる茶会を開催した。	体験活動等	受託

合　計

とよた科学体験館　計	２７事業	１０３，０７８人	
喜楽亭　計	１事業	３４１人	
事業　総合計	２８事業	１０３，４１９人	

（4）利用実績

施　設　名	件　数	人　数	利　用　内　容
小ホール	１９０	２２，１８５	講演会・発表会
多目的ホール	２６５	１７，８２１	展示会・研修会・パーティー等
プラネタリウム	７８１	５６，００２	学習投映・一般投映等
サイエンスホール	３１５	１７４，６９１	学習見学・一般見学等
喜楽亭	８９	５，３１３	茶会・講座等
その他	４，１９９	１３５，２１０	中日文化センター等
計	５，８３９	４１１，２２２	

公益財団法人豊田市文化振興財団

議題（３）

令和８年度　事業計画書（青少年部抜粋版）

１　基本方針

（１）安心安全な施設づくりを土台に、「育成段階に応じた事業展開」、「多様な主体との共働の推進」及び「活躍機会の提供」を推進します。

　また、豊田市国際交流協会との合併を機に、多文化共生や共創社会、合理的配慮を意識した事業展開に取り組みます。

　豊田市こども・若者計画の基本理念である「こどもの笑顔があふれるまち　とよた」を目指し、こどもや若者、そして青少年の健全育成に関わる全ての人の「ウェルビーイング」を追求する事業展開や施設運営を実施します。

（２）青少年センターでは、若者の育成段階に応じた事業体系において「若者の社会参加の促進」、「若者の自立支援」、「居場所づくり」及び「情報発信」の４本柱の事業を通じ、こどもや若者が文化や出自の違いに関係なく、安心して自分らしく生きることができる環境を目指します。また、活動の機会を求める若者の要望に応えるため、１階サロンを、若者の活動発表・作品展示の場として多彩なジャンルのイベントに積極的に活用します。

（３）総合野外センターでは、豊田市子ども条例で子どもが豊かに育つ権利として自然に親しむことが保障されていることを特に意識して、六所山とその周辺の自然環境の中での野外活動を通し、遊び、学び、体験の機会と場を提供して、青少年の健全な育成と指導者の技量向上支援に努めます。そのために山遊び初心者から冒険少年まで、それぞれの“わくわく”を満たす事業を実施します。

（４）産業文化センター（とよた科学体験館）では、どなたでも気軽に施設へアクセスできるバリアフリーな施設を目指し、施設への愛着や親しみを感じていただく機会を提供する「コモンズ　プロジェクト」を実施します。また開館 40 年を経過し、施設の老朽化を改善する修繕や改修について、市と連携を密にして安心安全で快適な施設運営につながるよう進めます。

２　会議

青少年育成委員会

名　　称	期日	会　場	内　　容
第１回 青少年育成委員会	５月	青少年センター 会議室	令和７年度事業報告について 令和８年度事業計画について 令和８年度事業視察について　ほか
第２回 青少年育成委員会	９月		令和８年度事業視察について 令和９年度事業計画（案）について　ほか
第３回 青少年育成委員会	２月		令和８年度事業視察について 令和９年度事業計画（案）について　ほか

3　青少年センター

外部団体や民間事業者との共働など、これまで培ってきた当センターのネットワークを駆使し、様々なステークホルダーや豊田市の部署等との連携をもとに、若者支援のプラットホームとして機能する施設を目指し、若者の成長を応援します。

事業面では、若者の育成段階に応じた事業を展開する中で参加者自身が主体的に活動する場づくりも意識しながら、若者の社会参加や課題解決に向けた取組を支援し、若者や活動団体の積極的な自主活動を促進します。

また、青少年育成委員会の事業評価をはじめ利用者、参加者等のニーズや活動のプロセス及び SDGs の達成目標を意識した施設運営に努めます。他県、他市の先進的な施設と積極的に交流を行い、当センター全体のレベルアップを図ります。

（1）事業

「若者の社会参加の促進」、「若者の自立支援」、「居場所づくり」、「情報発信」の 4 本の柱を中心に事業を実施します。

ア 「若者の社会参加の促進」
　意欲段階に応じ、若者が社会に接する機会の創出を行います。

イ 「若者の自立支援」
　若者を取り巻く社会課題等に向き合い、若者の社会的自立を促します。

ウ 「居場所づくり」
　若者に関する様々な講座や若者同士が「つながる」事業を実施し、青少年センターを居場所とする若者を増やします。

エ 「情報発信」
　ボランティアの募集や各種イベント・事業・フリー開放（空き部屋活用）など、若者に有益な情報を SNS 及びホームページを使って配信します。

（2）施設運営

自主定期点検マニュアルに基づいた施設管理をはじめ、公共施設に必要な訓練、利用者ニーズを把握する利用者懇談会・アンケート等の実施を通して、合理的配慮の視点とともに常に安全・安心・快適な利用環境の提供を目指し、効率的な管理運営でサービスの向上に努めます。また、災害や事故に備えた危機管理意識を持ち、異常の早期発見・早期対処など予防保全に努めるなど日常管理の積み重ね、安定的で使いやすい施設運営につなげます。

（3）事業一覧

※事業区分について：自主－当財団独自の事業、共催－豊田市との共催事業、
受託－豊田市等から委託を受けて実施する事業

【青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業】

事　業　名	期 日	人　数	内　　容		事業区分
【社会参加】 インターンシップ事業	夏期・春期	延べ ５０人	豊田市及び近郊の高校・大学と連携し、就業体験等を通じて働くことや公共施設等への理解を深めるサポートを行う。 ※各回５人×５日間×２回	体験活動等	自主
【社会参加】 若者倶楽部	通年	４２０人 定例会 15 人×12 月×2 回 イベント 30 人×2 回	大学生世代以上の若者が集まり、まちづくり等の社会参加型事業の担い手として活躍する機会を提供する。	講座、セミナー、育成	共催
【社会参加】 学生交流塾	通年	３３０人 定例会 10 人×12 月×2 回 イベント 30 人×３回	高校生以上の学生、生徒が学校や学年の垣根を越えて集い、柔軟な発想と軽快なフットワークとチームワークで「まちづくり」、「ボランティア」、「企業コラボ」等の活動を展開し、学生同士の交流を図る。	体験活動等	共催
【社会参加】 社会参加バンク	通年	登録者数 ６００人	ボランティアや地域イベントのお手伝い等を希望する若者と若者の力を求める団体をつなぎ、若者の社会参加を促進する。	体験活動等	共催
【社会参加】 活動支援事業	通年	２，５００人	青少年団体、若者グループ、高校・大学のゼミ活動・クラブ活動等で、サロン等を活用して自己表現する機会、まちづくりイベント等を支援する。	体験活動等	共催
【自立支援】 若者応援事業	通年	延べ ３００人	若者の社会的課題の解決を図り自立を促す事業、二十歳のつどいに関わる若者の巻き込みや、カフェ事業等で若者のつながりを創出し、気軽に集まり交流できる事業も実施する。	講座、セミナー、育成	共催
【情報発信】 とよた若者応援ネット『プラス』	通年	―	LINE を活用した個人登録者の登録データと SNS を活用し、イベント情報、ボランティア情報、婚活情報等、青少年に有益な情報を数多く配信する。	その他	共催
【社会参加】 若者によるまちづくり提案事業「WAKATTE」	5月～2 月	―	豊田市の活性化や魅力発信に関する事業等の提案を募集する。審査を行い、提案実施支援金 50 万円を上限に提案を採択する。	体験活動等	共催
【社会参加】 高校生 ボランティアスクール	5月～３月	延べ １，１００人	市内高校と連携し、高校生がボランティア活動を行う機会を提供し、高校生の社会参加を促す。	講座、セミナー、育成	共催

【社会参加】 学生によるまちづくり提案事業	6月～2月	延べ １６８人	学生がまちづくりに関する考え方や手法を学び、企画提案から実現への取組を伴走支援する。 6団体（1団体４人）×7回	講座、セミナー、育成	共催
【居場所づくり】 種まき事業	年1回	延べ ２０人	仲間づくり等若者に関する様々な講座・イベントを開催し、青少年センターを活動拠点としてPRする。	講座、セミナー、育成	共催
【社会参加】 サークル・グループ文化祭	1月	２，０００人 （内訳） 参加者 ２００人 来館者 １，８００人	青少年団体で組織する実行委員会が企画運営し、日頃の活動を広く市民へＰＲし、新規団体及び新メンバーの獲得につなげる機会とする。また、近隣大学・高校等の若者に広く参加を呼びかけ、利用促進の機会とする。	体験活動等	共催
【自立支援】 若者未来塾（若者・外国人未来応援事業）	通年 毎週水金曜 隔週土曜	延べ ２００人	学力格差による貧困の解消につなげるための学習支援事業。 高等学校卒業程度認定取得を目指した支援を行うとともに、成績不振の中高校生への支援も行う。	講座、セミナー、育成	受託
【居場所づくり】 学習・卓球等若者開放事業	通年	２０，０００人	青少年に居場所を提供する事業。 空き室を自主学習や音楽・ダンス・演劇等の自主練習、仲間同士の親睦の場として活用するほか、定期的に卓球器具の貸出し（卓球開放）を行い、憩いの機会を提供する。	施設の貸与	受託

【青少年音楽団体の運営及び青少年団体に対する助言その他の支援を行う事業】

事　業　名	期 日	人　数	内　　容		事業区分
豊田市青少年団体傷害互助会事業	通年	―	豊田市内の青少年団体の活動を支援するための互助会組織。 団体活動中に不慮の事故に遭いけがを負った場合の傷害見舞金の支給。被保険者の過失による活動中の死傷事故及び第三者の財物の損害に対する賠償保険金の支給。 ※会員２５，０００人	その他	自主
豊田市文化振興財団大会	6月	―	優れた業績をあげた団体及び功労者を称え表彰する。	その他	自主

レクリエーション 団体指導者派遣	通年	―	①レクリエーション指導者団体の情報交換（定例会）を行うとともに、子ども会等へ指導者を派遣し活動支援を行う。 ②青少年サークルをふれあいまつり等地域行事に派遣し、地域活動に若者の力を導入する。 ※①②計１００回	相談･助言	共催
子ども会事務支援	通年	―	豊田市子ども会育成連絡協議会の事務局として運営を支援し、子ども会活動の活性化に寄与する。	相談･助言	受託

合　計

事　業　総　合　計	１８事業	２７，６８８人	

（４）利用予定

青少年センター

施　　設　　名	件　数	人　数	利　用　内　容
会議室・音楽室 ・軽運動室 等	７，０００	６２，０００	会議・研修・バンド練習・ダンス 等

その他

施　　設　　名	件　数	人　数	利　用　内　容
サロン・若者ルーム 等	―	３０，０００	たまり場等

総合計

総　　合　　計	７，０００	９２，０００	

4　総合野外センター

六所山とその周辺の自然環境の中で、キャンプ、ハイキングそして自然観察などの野外活動を通し、遊び、学び、体験の機会と場を提供して、青少年の健全な育成と指導者の技量向上支援に努めます。

小中学校、青少年団体をはじめ、家族や小グループにも気軽に六所の自然に親しむことができるよう、わかりやすく、安全で使いやすい施設を整備し、安心と達成感そして幸福感のある施設利用を提供します。

また、令和 6 年の豊田市青少年育成施設条例改正により、利用対象が「0 歳～29 歳」と拡大しました。幅広い年齢層を対象とした事業展開を進め、これまでの団体利用の継続と、新たな利用拡大を推進します。

（1）事業

この施設の活動に精通した所員による事前打合せや直接指導を通して、教育課程に基づく小中学校の利用や、こども園、子ども会等の利用に込めた目的の達成を支援します。

野外活動を通して自然環境と向き合うことで、それを理解して「自然との共生」の大切さを感じる体験と、そこにある困難に仲間と協力して対処し「生きる力」を身に付ける体験を実施します。山遊び初心者から冒険少年まで、それぞれの“わくわく”を満たす事業展開をします。

（2）施設運営

近年問題となっている熱中症や従来からある野外活動の危険要素に対して、適切な対処を提案し、安心して施設を利用できる環境を整えます。

自然災害や老朽化により、利用障害となる施設設備の営繕や保全作業に努め、安全で快適な施設利用を担保して、利用者の活動目的達成に貢献します。

子ども、大人、障がいのある方、外国から来られた方等、あらゆる人が安心して楽しく利用できる施設を目指します。

市の所管課をはじめ関連する主体との連携を密にし、“安全”、“安心”な野外活動施設を提供します。また、これら関連主体や利用団体の意見を取り入れ、負担が少なく、より効果的な活動プログラムの開発・提案と、施設の更なる有効活用を進めます。

（3）事業一覧

※事業区分について：自主－当財団独自の事業、共催－豊田市との共催事業、
受託－豊田市から委託を受けて実施する事業

【青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業】

事　業　名	期 日	人　数	内　　容		事業区分
体験学習講座 支援事業	年３回	４５人	野外センターの自然や里山環境を活かした体験活動型の講座、研修会をサポートする。 ※各回１５人	体験活動等	自主
大学連携事業	6月～3月	２４人	自然体験活動や社会教育士資格取得を目指す大学生の実習(県内の大学と共同事業)をサポートする。また実習で大学生が企画したイベントを、大学と共同開催する。	体験活動等	自主
アウトリーチ講座 応援アウトドア	年3回	４５人	当センターのプログラムやノウハウを使ったミニ野外活動体験会や講座などに、職員を講師として派遣する。 ※各回１５人	体験活動等	共催
野外活動体験塾	年3回	３０人	不登校やひきこもり、障がいのある青少年の支援団体や保護者グループの野外活動を支援する。 ※各回１０人	体験活動等	共催
六所であそぼう	4月 8月 11月 2月	１７６人	小学校低中学年を対象とした日帰り自然体験事業を実施。自然の中での遊びを通して、野外活動に親しむ感覚を育む。 ※全４回　各回４４人	体験活動等	共催
六所でキャンプ	5月 7月 １２月	１０８人	小学校中学年から中学生までを対象とした、宿泊の自然体験事業。キャンプ体験を通して野外活動の楽しさや難しさに向き合いながら、自主性や協調性を育む。 ※全３回　各回３６人	体験活動等	共催
親子自然体験塾	１０月 １２月	５４人	自然体験を深めたい家族を対象とした事業。「自然」や「里山」をテーマにしたアクティビティを通じて、感動や喜びを共有し、家族のきずなを深める。 ※全２回　各回９家族２７人	体験活動等	共催
チャレンジキャンプ	8月	３６人	小学校中学年から中学生に向けた、ステップアップ事業。長期キャンプで、仲間や困難とじっくり向き合う時間を創出。連帯感や達成感を味わうことにより、忍耐力と自己肯定感を育む。　※全１回	体験活動等	共催

山の子学級	1月～3月	１０８人	小学校中学年から中学生に向けたレベルアップ事業。仲間との継続的な活動、長期スパンを活かした計画により、自ら考える時間を創出。仲間や自然への愛着、野外活動の企画や運営などへの興味の芽生えを育む。　※各回３６人	体験活動等	共催
高校生ボランティアスクール	5月～3月	１１０人	青少年センター事業「高校生ボランティアスクール」の野外センターコースを実施する。キャンプ場の仕事を体験する場を提供する。 ※各回１０人	講座、セミナー、育成	共催
森の音楽会 ・森と絵本	１０月 １１月	９０人	自然体験への導入事業。「自然」をテーマにした音楽会や絵本の読み聞かせと、会場となる環境の相乗効果により、五感を刺激。豊かな感性を育む。 ※各回１５家族４５人	体験活動等	共催
六所山 キャンプクラブ	8月 １２月 3月	30人	中学生から大学生までを対象に、野外活動の継続を期待する声に応える事業。希望者でグループを作り、キャンプを計画。技術の向上や指導者養成の入門編として実施。 ※各回１０人	講座、セミナー、育成	共催
キャンプスタッフ プログラム研修会	年2回	１６人	共催事業のサポートをする大学生を対象に、特に安全面を重視した事前研修を行う。 ※各回８人	講座、セミナー、育成	共催
キャンプスタッフ トレーニング キャンプ	5月 7月 9月	１２０人	キャンプスタッフに必要な知識や技能を獲得するとともに、野外活動に対する意欲向上を図る。また、キャンプスタッフ間の連携を深める。　※各回 40 人	講座、セミナー、育成	共催
キャンプ インストラクター 養成講習会	2月	３０人	愛知県キャンプ協会と連携して野外活動の基礎的な知識や技能の実践的な講習を行い、野外活動を支援する指導者を養成する。 ※全１回	講座、セミナー、育成	共催
小中学校等 野外活動直接指導	通年	7，300 人	こども園、小中学校、青少年団体等の活動支援として、専門知識を有した職員が直接指導を行う。	体験活動等	受託

合　計

事　業　総　合　計	１６事業	8，３２２人	

（４）利用予定

施　設　名	件　数	人　数	利　用　内　容
自然の家	２００	８，０００	宿泊研修等
キャンプ場	４００	１６，０００	野外活動等
運動広場	２０	６，０００	軽スポーツ等
資料館	２０	７００	動植物標本・民芸資料の展示
多目的ホール	５０	２，９００	軽スポーツ･雨天時等の活動等
研修室	３０	１，６００	軽スポーツ･雨天時等の活動等
計	７２０	３５，２００	

5　産業文化センター（とよた科学体験館及び喜楽亭を含む。）

市民の心の豊かさや幸福の追求と合理的配慮の視点を取り入れ、あらゆる市民に開かれた施設を目指します。また、文化活動や中心市街地活性化に向けた取組などの多様な利用者ニーズに対応し、多機能な複合施設としての特色を踏まえた施設運営を行います。

施設面では長寿命化改修工事に向けて、市との調整を緊密に取り組みます。更に建築物等適正管理マニュアルに基づく自主点検を定期的に実施し、不具合箇所の早期発見、早期対応に努め、「安全」・「安心」・「快適」な施設の提供に注力します。

とよた科学体験館は、市の科学教育を担う中心施設として、幼児から青少年や高齢者までの多様な市民が気軽に科学に触れる機会拡充に努めます。教育的な事業のみならず、こどもの声を聴き、皆が体験することによって、誰もが新しい発見と驚きに出会い、日常の中で科学を楽しめる喜びの創出に取り組みます。

また、文化的建造物（国の登録有形文化財）である喜楽亭では、施設の特徴を生かした文化・伝統行事体験事業を実施します。

（１）事業

産業文化センター・科学体験館・喜楽亭へ、どなたでも気軽に施設へアクセスできるバリアフリーな施設を目指し、館内の掲示物や配布物、事業チラシ等の優しい日本語化や多言語化、合理的配慮の他、様々な取組により施設への親しみを感じていただく機会提供を推進する「コモンズ　プロジェクト」を実施します。

科学体験館では、天文・サイエンス・ものづくり事業において、市民ニーズを考慮した多種多様な事業展開を図ります。

天文事業では、幅広い年代が楽しめる特別プログラムとして「いろいろプラスネタリウム」などの開催により、新たな顧客開拓とリピーターの獲得に努めます。

サイエンス事業では、最先端科学や注目度の高い分野の講師を招く「サイエンスセミナー」、地元企業の科学技術などを体験するワークショップ「レッツ・エンジョイ・サイエンス」を開催し、次世代を担うこども達がサイエンスやものづくりへの好奇心、モチベーションを向上させる機会を提供します。

喜楽亭では、施設の特性を活かした「喜楽亭茶会」を開催し、市民の文化体験の機会を提供するとともに、文化的建造物の認知を高めます。

（２）施設運営

開館４０年を経過し、老朽化の改善に向けて、利用者の視点で市当局との調整に注力します。また、複数の公共機能を有した複合施設の建物設備全体を包括的に維持管理し、管理経費の節減を図るとともに、施設全体の連絡会議を定期的に開催し、情報共有を図ります。更に中心市街地にある大型施設として、有料駐車場の管理や災害時の帰宅困難者対策への協力を行います。

（3）事業一覧

※事業区分について：自主－当財団独自の事業、共催－豊田市との共催事業、
受託－豊田市から委託を受けて実施する事業

【青少年育成施設等を活用して、青少年の社会性と豊かな情操を養う機会と場を提供する事業】

ア 科学体験館事業

事　業　名	期　日	人　数	内　　容		事業区分
社会包摂推進事業 コモンズ プロジェクト （体験館・産文・喜楽亭）	通年	―	科学体験館、産業文化センター、喜楽亭すべての業務を対象とし、館内の掲示物や配布物、事業チラシなどの優しい日本語化や多言語化、障がい者の事業参加への配慮、どなたでも気軽に来館できる機会の提供による創客を推進し、その成果を市民へ情報発信する。	体験活動等	自主
こども園アウトリーチ事業	通年	７５０人	こども園に出向き、園児に科学の不思議をショー形式で紹介する。実験を通して楽しみながら科学への興味を深める。 ※５０人×１５園	体験活動等	自主
ミニワークショップ	通年	18，000人	短時間でできる科学的要素を取り入れた簡単な工作教室を開催する。	体験活動等	自主
ものづくりフェスタ２０２６	年1回	１２０人	ものづくりフェスタ実行委員会主催のイベントに実行委員の派遣とブースの出展協力をする。	体験活動等	自主
プラネタリウム投映事業	通年	30，000人	当日夜の星空解説と、迫力のある全天周シミュレーション映像体験を通じて天文や宇宙への興味・関心を深める。一般・団体・学習などのニーズに対応した解説や全天周番組投映、シミュレーション映像投映を開催する。	体験活動等	受託
サイエンスショー	通年	20，000人	一般・団体向けに、実験によって科学の原理を紹介する実験ショーを開催する。	体験活動等	受託
ワークショップ	通年	２００人	主に小・中学生向けに科学やものづくりの楽しさを体験できる実験･工作教室を開催する。 ※２０人×１０回	講座、セミナー、育成	受託
サイエンススクール	通年	２００人	中学・高校の科学部等を対象にした学習会を開催し、その成果発表の場として、サイエンスショー発表会（カーニバル）を開催する。	講座、セミナー、育成	受託

展示整備事業	通年	―	展示品の製作検討や既存の展示物の点検・修理を行うため、定期的に展示整備委員会を開催する。	体験活動等	受託
出前天体観測会	年１０回	７００人	小学校や交流館に出向き、天文の話や天体望遠鏡による観望会を開催する。 ※７０人×１０回	体験活動等	受託
街中の星見会 「まちぼし」	年１０回	７００人	天体望遠鏡を使って街中でも気軽に観測できる月や惑星を見る観望会を開催する。 ※７０人×１０回	体験活動等	受託
サイエンスクラブ 初級コース	年5回	１２０人	小学３・４年生向けに、年間を通して、科学全般に関する実験・科学工作の講座を開催する。※２４人×5回	講座、セミナー、育成	受託
サイエンスクラブ 中級コース	年5回	１２０人	小学５・６年生向けに、年間を通して、科学全般に関する実験を中心とした講座を開催する。 ※２４人×5回	講座、セミナー、育成	受託
アストロクラブ 初級コース	年5回	２５０人	小学校４年生から６年生までを対象にした天文教室。天文の基礎知識や星座の見付け方などを学ぶ講座を開催する。 ※５０人×5回	講座、セミナー、育成	受託
アストロクラブ 中級コース	年5回	１００人	小学校５年生から中学生までを対象にした天文教室。望遠鏡等の活用の仕方を通して、天文の楽しみ方を学ぶ講座を開催する。 ※２０人×5回	講座、セミナー、育成	受託
科学ふらっときかく展	年4回	―	天文、サイエンス等に関する様々な資料を展示したり体験することにより、気軽に科学に触れる機会を増やし関心を高める。	体験活動等	受託
いろいろプラスネタリウム	年3回	３６０人	プラネタリウムならではのテーマやタイムリーな話題を取り上げ、幅広い年代向けにライブ感を生かした特別投映を開催する。 ※１２０人×3回	体験活動等	受託
スペシャルサイエンスショー	年2回	２８０人	外部講師による特別イベントを開催する。 ※７０人×2回×2日	体験活動等	受託

発見科学コーナー	年２回	―	常設展示より質の高い体験学習を開催する。体験館ならではの物や職員による専門的な解説で当館の魅力を発信する。	体験活動等	受託
みんなで！ サイエンスショー	年２回	２００人	サイエンスショー後に、ステージで動きや反応を楽しむことができる体験学習を提供する。	体験活動等	受託
学習指導要領発展事業	年１回	１２人	小学４年生から６年生までを対象に、理科の学習指導要領の理解をより深めるためのワークショップを開催する。	講座、セミナー、育成	受託
サイエンスセミナー	年１回	１５０人	「科学を文化として楽しもうプロジェクト」の一環として、最先端科学の研究者や注目度の高い技術分野の専門家を講師に招き、講演会を開催する。 （会場：小ホール予定）	講座、セミナー、育成	受託
親子天文教室	年１回	１００人	親子を対象に季節の星空や宇宙の話題をわかりやすく紹介するイベントを開催する。	体験活動等	受託
プラネタリウム コンサート	年１回	２４０人	プラネタリウムの星空のもと、星座解説やプロの音楽家の生演奏のコンサートを開催する。 ※１２０人×２回	体験活動等	受託
レッツ･エンジョイ･サイエンス	年１回	１００人	「科学を文化として楽しもうプロジェクト」の一環として、地元企業の科学技術やタイムリーな科学テーマに関する技術者を指導講師に迎え、子どもから大人まで楽しめるワークショップを開催する。 （会場：多目的ホール予定） ２５組５０人×２回	体験活動等	受託
発展理科講座	年１回	１２人	多くの年代の市民が参加できる理科実験を使ったワークショップを開催する。	体験活動等	受託

イ 喜楽亭事業

喜楽亭茶会	年３回	３６０人	茶友会と連携し、季節ごとに特色ある茶会や子どもによる茶会を開催する。 ５月、11 月、２月開催予定	体験活動等	受託

合　計

とよた科学体験館　計	２６事業	７２，７１４人	
喜楽亭　計	１事業	３６０人	
事業　総合計	２７事業	７３，０７４人	

（４）利用予定

施　設　名	件　数	人　数	利　用　内　容
小ホール	２００	２０，０００	講演会・発表会
多目的ホール	２７０	２０，０００	展示会・研修会・パーティー等
プラネタリウム	７５０	５０，０００	学習投映・一般投映等
サイエンスホール	３２０	１５０，０００	学習見学・一般見学等
喜楽亭	１５０	１０，０００	茶会・講座等
その他	４，４００	１５０，０００	中日文化センター等
計	６，０９０	４００，０００	

議題（４）

令和８年度　モニタリング事業

1　趣旨

主催事業をご視察いただき、客観的な立場からの評価やご意見ご助言により、今後の事業の企画や運営に役立てるために行います。

2　モニタリング事業

委員１人につき、年間２以上のモニタリングをお願いします。

次ページにある施設側が評価をいただきたい事業を中心としますが、一覧以外の事業（令和８年度事業計画書を参照）も可とします。また、後期モニタリング事業については、第２回委員会時にモニタリング事業をお知らせします。

事業の評価は、第２回または第３回の委員会時にご報告いただきます。

3　申込み・問合せ等

基本は、委員会事務局の青少年センターとしますが、総合野外センターや産業文化センターの事業に関しては、日程調整や詳細等の問合せもあるので、直接やり取りいただいても構いません。

4　評価書の提出

基本は、青少年センターとしますが、総合野外センターや産業文化センターでも構いません。

評価書の様式は、担当者からデータまたは紙でお渡しします。

5　担当者と連絡先

●青少年センター（担当：近藤・江坂）
①電話／0565-32-6296
②Ｅメール／youth@city.toyota.aichi.jp

●総合野外センター（担当：山中・山村）
①電話／0565-58-1388
②Ｅメール／toyota-yagai-center@ city.toyota.aichi.jp

●産業文化センター（担当：荘田・中根）
①電話／0565-33-1531
②Ｅメール／sanbun@ city.toyota.aichi.jp

令和８年度モニタリング事業一覧（前期）

（R８.５.１７現在）

番号	施設	事　業　名	開催日	ページ
1	青少年センター	若者によるまちづくり提案事業 WAKATTE（２次審査会）	6月28日（日） 13：00～17：00	P.4
2	青少年センター	種まき事業「人気オーナー直伝！ スパイスカレーを作ろう」	7月12日（日） 10：00～12：30	P.5
3	青少年センター	学生によるまちづくり提案事業 （企画案ブラッシュアップ研修）	7月18日（土） 10：00～15：00	P.6
4	野外Ｃ	六所でキャンプ②	7月4日（土）～5日（日）	P.7
5	野外Ｃ	六所であそぼう②	8月8日（土）	P.8
6	野外Ｃ	チャレンジキャンプ	8月13日（木）～16日（日）	P.9
7	産業文化センター	いろいろプラスネタリウム① 「スターリーテラーkeisukeの星の話芸」	5月30日（土） ①14：30～15：15 ②17：00～18：00	P.10
8	産業文化センター	いろいろプラスネタリウム② 「はじめてのプラネタリウム」	7月4日（土）、11日（土） 10：00～10：25 12月5日（土）、19日（土） 10：00～10：25	P.11
9	産業文化センター	科学ふらっときかく展 「さわって学べる昆虫の科学展」	7月18日（土）～8月30日（日） 9：00～17：00	P.12

モニタリング予定

委員名	一覧番号	上記以外の事業
宇井　委員		
大村　委員		
斉藤　委員		
白川　委員		
西本　委員		
野畑　委員		
稗田　委員		

モニタリング事業（候補施設）

委　員	青少年Ｃ	野外Ｃ	産業文化Ｃ 科学体験館
宇井委員			○
大村委員	○	○	○
斉藤委員	○	○	
白川委員	○		
西本委員			○
野畑委員	○	○	
稗田委員	○	○	

※可能であれば、○印が付いている施設の事業について、モニタリングをお願いします。ただし、日程等、都合が悪い場合は、別の施設で構いません。

※２回以上モニタリングする場合は、特に指定はしませんので希望する施設（事業）のモニタリングをお願いします。
ただし、年４回までお願いします。

公益財団法人豊田市文化振興財団　青少年育成委員会

令和８年度 モニタリング事業 概要

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="3">若者によるまちづくり提案事業　WAKATTE</td><td>施設名</td><td>青少年センター</td></tr>
<tr><td>事業区分</td><td>形態別</td><td colspan="3">□受託　　■共催（共催：豊田市）　　□自主</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="5">令和８年６月６日（土）～令和９年３月１３日（土）</td></tr>
<tr><td>開催会場</td><td colspan="5">青少年センター他</td></tr>
<tr><td>対　　象</td><td colspan="3">豊田市で活動している 18 歳～35 歳</td><td>定　員</td><td>－　人</td></tr>
<tr><td rowspan="5">予　　算
（事業全体）</td><td>内　　訳</td><td>金　　額</td><td colspan="2">主な用途</td><td rowspan="5">合　計

790,000 円</td></tr>
<tr><td>市費負担分</td><td>790,000 円</td><td colspan="2">事業実施委託費</td></tr>
<tr><td>参加者負担分</td><td>円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>財団負担分</td><td>円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>そ　の　他</td><td>円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>事業のねらい
（目　的）</td><td colspan="5">若者が自らの強みを生かし、「まちのヒト・コト・モノ」と関わる社会参加企画を提案・実践することを通じて、多様な人々や多世代と関わりを深め、思考力、判断力、企画力等を育み、地域社会の担い手として成長する。</td></tr>
<tr><td>事業の内容</td><td colspan="5">まちと関わる社会参加企画の提案を若者団体から募集し、審査を行った上で、採択された団体が企画の実現を図る。</td></tr>
<tr><td>事　業　の
広報・ＰＲ</td><td colspan="5">・広報とよた４月号
・財団各施設チラシ配布
・市内中心に県内大学のまちづくり関係学部やゼミにチラシ配布
・市内の青年団体（社会人の団体）へチラシ配布
・SNS による PR</td></tr>
<tr><td>重点視察項目</td><td colspan="5">若者団体が自らの強みや意欲を生かした社会参加企画を提案できているか。</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="5">・２次審査（プレゼン）をモニタリングしていただきたい。
・２次審査は ６月２８日（日）午後１時～午後５時で、１次審査（６月６日実施）通過者のみプレゼンを実施する。
・企画の開催日時、会場、対象、定員については、２次審査終了、委託契約締結後、確定する。</td></tr>
</table>

事務局欄	

公益財団法人豊田市文化振興財団　青少年育成委員会

令和８年度 モニタリング事業 概要

事　業　名	種まき事業「人気オーナー直伝！スパイスカレーを作ろう」		施設名	青少年センター
事業区分	形態別	□受託　■共催（共催：豊田市）　□自主		
開催日時	令和８年７月１２日（日）午前１０時００分～午後０時３０分			
開催会場	市ジェンダー平等推進センター（産業文化センター２階）			
対　　象	18 歳～39 歳(高校生は除く)		定　員	20　人
予　　算 （事業全体）	内　訳	金　額	主な用途	合　計
	市費負担分	123,000 円	事業実施委託費	
	参加者負担分	40,000 円	消耗品費、保険料	
	財団負担分	円		163,000 円
	そ　の　他	円		
事業のねらい（目　的）	気軽に参加できる講座を通じて若者の交流を促し、青少年センターの認知向上と新規利用者の拡大を図る。			
事業の内容	・料理作りを通した仲間づくり ・人気カレー店オーナーから、家庭とは一味違うスパイスカレーを習得する			
事　業　の広報・ＰＲ	・広報とよた６月号 ・財団各施設および市内公共施設チラシ配布 ・SNS による PR			
重点視察項目	・参加者同士が交流できているか ・青少年センターに引き続き興味を持ってもらえるようになっているか			
特記事項				

事務局欄	

公益財団法人豊田市文化振興財団　青少年育成委員会

令和８年度 モニタリング事業 概要

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="3">学生によるまちづくり提案事業</td><td>施設名</td><td>青少年センター</td></tr>
<tr><td>事業区分</td><td>形態別</td><td colspan="4">□受託　　■共催（共催：豊田市）　　□自主</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="5">令和８年７月４日（土）～　令和９年３月７日（日）</td></tr>
<tr><td>開催会場</td><td colspan="5">青少年センターほか</td></tr>
<tr><td>対　　象</td><td colspan="3">高校生以上の学生</td><td>選　考</td><td>約 30　　人</td></tr>
<tr><td rowspan="5">予　　算
（事業全体）</td><td>内　　訳</td><td>金　　額</td><td colspan="2">主な用途</td><td rowspan="5">合　計

1,307,000 円</td></tr>
<tr><td>市費負担分</td><td>1,307,000 円</td><td colspan="2">・コーディネート業務委託料
・学生提案実施委託料</td></tr>
<tr><td>参加者負担分</td><td>円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>財団負担分</td><td>円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>そ　の　他</td><td>円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>事業のねらい
（目　的）</td><td colspan="5">・学生の好きなことや得意なことと、まちづくりをつなげ、事業を通して学生につくり出すことの楽しさを体感してもらう。
・企画の実現に向けて、他の学生や地域の人と協働することで、学生の自己成長や社会参画につなげる。</td></tr>
<tr><td>事業の内容</td><td colspan="5">・まちの賑わいづくり、豊田市の PR に繋がる企画の実施。</td></tr>
<tr><td>事　業　の
広報・ＰＲ</td><td colspan="5">・広報とよた５月号掲載
・財団施設へのチラシ配布
・市内外の高校と大学、及びゼミへチラシ配布
・ホームページや SNS での広報</td></tr>
<tr><td>重点視察項目</td><td colspan="5">・学生が主体となって企画が考えられているか
・参加者同士、協力して取り組めているか</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="5">・研修２回目の企画案ブラッシュアップ研修（7 月 18 日（土）午前 10 時～午後 3 時、交流室）をモニタリングしていただきたい。</td></tr>
</table>

事務局欄	

公益財団法人豊田市文化振興財団　青少年育成委員会

令和８年度 モニタリング事業 概要

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="3">六所でキャンプ②</td><td>施設名</td><td>総合野外センター</td></tr>
<tr><td>事業区分</td><td>形態別</td><td colspan="4">□受託　　■共催（共催：豊田市）　　□自主</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="5">令和８年７月４日（土）　10：00　～　５日（日）15：00</td></tr>
<tr><td>開催会場</td><td colspan="5">豊田市総合野外センター</td></tr>
<tr><td>対　　象</td><td colspan="3">市内在住の小学４年生～中学３年生</td><td>定　員</td><td>36　人</td></tr>
<tr><td rowspan="5">予　　算
（事業全体）</td><td>内　　訳</td><td>金　　額</td><td colspan="2">主な用途</td><td rowspan="5">合　計

167,000　円</td></tr>
<tr><td>市費負担分</td><td>41,000 円</td><td colspan="2">全体活動用品</td></tr>
<tr><td>参加者負担分</td><td>126,000 円</td><td colspan="2">3,500 円×36 人　食事代、シーツ代、教材費、保険代、通信費</td></tr>
<tr><td>財団負担分</td><td>円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>そ　の　他</td><td>円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>事業のねらい
（目　的）</td><td colspan="5">・キャンプ体験を通して、野外活動の難しさに向き合いながら、自主性や協調性、野外活動への意欲を育む。</td></tr>
<tr><td>事業の内容</td><td colspan="5">・他国の文化的な遊びを野外活動に取り入れる。
・場内探検を行い、自然に親しみながら体を動かす。
・他国の料理を作ることで食育とする。</td></tr>
<tr><td>事　業　の
広報・ＰＲ</td><td colspan="5">・ホームページ
・広報とよた
・電子チラシ(小中学校)
・事業参加者へのチラシ配布</td></tr>
<tr><td>重点視察項目</td><td colspan="5">・宿泊キャンプの入り口事業として、企画の内容は適切か。
・キャンプスタッフは適切に、活動の運営を行えているか。
・子どもたちが自然と向き合い、楽しむことができているか。
・子どもの安全に配慮した活動を行っているか。</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="5">・六所でキャンプ①　５月２３日（土）～２４日（日）
・六所でキャンプ③　１２月５日（土）～６日（日）</td></tr>
</table>

公益財団法人豊田市文化振興財団　青少年育成委員会

令和８年度 モニタリング事業 概要

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="3">六所であそぼう②</td><td>施設名</td><td>総合野外センター</td></tr>
<tr><td>事業区分</td><td>形態別</td><td colspan="4">□受託　　■共催（共催：豊田市）　　□自主</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="5">令和８年８月８日（土）10：00　～</td></tr>
<tr><td>開催会場</td><td colspan="5">豊田市総合野外センター</td></tr>
<tr><td>対　　象</td><td colspan="3">市内の小学１～４年生</td><td>定　員</td><td>４４　人</td></tr>
<tr><td rowspan="5">予　　算
（事業全体）</td><td>内　　訳</td><td>金　　額</td><td colspan="2">主な用途</td><td rowspan="5">合　計

70,000　円</td></tr>
<tr><td>市費負担分</td><td>17,000 円</td><td colspan="2">全体活動用品</td></tr>
<tr><td>参加者負担分</td><td>53,000 円</td><td colspan="2">12,000 円×44 人　食事、教材費、通信費、保険代</td></tr>
<tr><td>財団負担分</td><td>円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>そ　の　他</td><td>円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>事業のねらい
（目　的）</td><td colspan="5">・いつもとは違う環境で様々な学校や学年の児童と交流するとともに、参加者が新たな視点と体験を得られる活動プログラムを提供する。
・低学年を対象にすることで長期的な利用者増加をねらう。</td></tr>
<tr><td>事業の内容</td><td colspan="5">・令和７年度「キャンプスタッフトレーニングキャンプ⑤」にて企画研修を実施。その際に選ばれた企画の実現。
・「水鉄砲ゴーストバスターズ」</td></tr>
<tr><td>事　業　の
広報・ＰＲ</td><td colspan="5">・ホームページ
・広報とよた
・電子チラシ(小中学校)
・事業参加者へのチラシ配布</td></tr>
<tr><td>重点視察項目</td><td colspan="5">・子どもの安全に配慮した活動を行っているか
・仲間づくりの促進につなげているか
・子どもが楽しそうに活動しているか</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="5">・六所であそぼう①　４月２６日（日）
・六所であそぼう③　１１月２８日（土）
・六所であそぼう④　２月１１日（木祝）</td></tr>
</table>

公益財団法人豊田市文化振興財団　青少年育成委員会

令和８年度 モニタリング事業 概要

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="3">チャレンジキャンプ</td><td>施設名</td><td>総合野外センター</td></tr>
<tr><td>事業区分</td><td>形態別</td><td colspan="4">□受託　　■共催（共催：豊田市）　　□自主</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="5">令和８年８月１３日（木）　10：00　～　１６日（日）　15：00</td></tr>
<tr><td>開催会場</td><td colspan="5">豊田市総合野外センター</td></tr>
<tr><td>対　　象</td><td colspan="3">市内の小学４年生～中学３年生</td><td>定　員</td><td>36　人</td></tr>
<tr><td rowspan="5">予　　算
（事業全体）</td><td>内　　訳</td><td>金　　額</td><td colspan="2">主な用途</td><td rowspan="5">合　計

393,000　円</td></tr>
<tr><td>市費負担分</td><td>105,000 円</td><td colspan="2">全体活動用品</td></tr>
<tr><td>参加者負担分</td><td>288,000 円</td><td colspan="2">8,000 円×３６人　食事代、シーツ代、教材費、通信費、保険代</td></tr>
<tr><td>財団負担分</td><td>円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>そ　の　他</td><td>円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>事業のねらい
（目　的）</td><td colspan="5">・長期キャンプにより、仲間や困難とじっくり向き合う時間を創出する。
・集団生活の中で、連帯感や達成感を味わうことにより、忍耐力と自己肯定感を育む。</td></tr>
<tr><td>事業の内容</td><td colspan="5">・３泊４日のキャンプを通じて、仲間と課題を解決する体験活動を行う。
※事業内容の詳細は未定</td></tr>
<tr><td>事　業　の
広報・ＰＲ</td><td colspan="5">・ホームページ
・広報とよた
・電子チラシ(小中学校)
・事業参加者へのチラシ配布</td></tr>
<tr><td>重点視察項目</td><td colspan="5">・宿泊キャンプの発展事業として、企画の内容は適切か。
・子どもたちが仲間と協力して、活動に取り組めているか。
・子どもたちが、問題解決に取り組むための手だては有効か。
・子どもたちが自然と向き合い、親しむことができているか。
・子どもの安全に配慮した活動を行っているか。</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="5"></td></tr>
</table>

公益財団法人豊田市文化振興財団　青少年育成委員会

令和８年度 モニタリング事業 概要

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="2">いろいろプラスネタリウム①
「スターリーテラーkeisuke の星の話芸」</td><td>施設名</td><td colspan="2">豊田産業文化センター
（とよた科学体験館）</td></tr>
<tr><td>事業区分</td><td>形態別</td><td colspan="4">■受託　　□共催（共催：豊田市）　　□自主</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="5">令和８年５月３０日（土）①14：30～15：15　②17：00～18：00</td></tr>
<tr><td>開催会場</td><td colspan="5">とよた科学体験館　プラネタリウム</td></tr>
<tr><td>対　　象</td><td colspan="3">①子ども向け（約 45 分）②一般向け（約 60 分）</td><td>定　員</td><td>各回 120　人</td></tr>
<tr><td rowspan="5">予　　算
（事業全体）</td><td>内　　訳</td><td>金　　額</td><td colspan="2">主な用途</td><td rowspan="5">合　計

209,000　円</td></tr>
<tr><td>市費負担分</td><td>200,900 円</td><td colspan="2">講師謝礼（130,000 円）
PR チラシ（11,000 円）等</td></tr>
<tr><td>参加者負担分</td><td>120,000 円</td><td colspan="2">500 円×120 人×2 回
※全額市へ納入</td></tr>
<tr><td>財団負担分</td><td>0 円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>そ　の　他</td><td>0 円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>事業のねらい
（目　的）</td><td colspan="5">プラネタリウムならではのテーマやタイムリーな話題を取り上げ、幅広い年代向けにライブ感を活かした特別投映を開催する。</td></tr>
<tr><td>事業の内容</td><td colspan="5">星空と笑いを融合させるスターリーテラーによるエンターテイメントショー
（豊田市初開催）</td></tr>
<tr><td>事　業　の
広報・ＰＲ</td><td colspan="5">・事業チラシ（財団各施設・館内配布）
・当館の HP、LINE@登録者
・広報とよた</td></tr>
<tr><td>重点視察項目</td><td colspan="5">・内容はタイムリーな話題であり、わかりやすいか
・聴講者の年齢層や知的好奇心との調和は取れているか
・プログラム全体の構成はよかったか</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="5">出演（解説）：スターリーテラーkeisuke 氏
星空を“笑い”と“語り”で届ける星空演芸人。星座や天文現象を題材に、落語・漫談・コントのような笑いの要素を織り交ぜた独自の星空解説を展開している。大阪の「星カフェ SPICA」を拠点に活動し、観望会やライブ、プラネタリウム公演など全国で精力的に出演している。</td></tr>
</table>

公益財団法人豊田市文化振興財団　青少年育成委員会

令和８年度 モニタリング事業 概要

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="2">いろいろプラスネタリウム②
「はじめてのプラネタリウム」</td><td>施設名</td><td colspan="2">豊田産業文化センター
（とよた科学体験館）</td></tr>
<tr><td>事業区分</td><td>形態別</td><td colspan="4">■受託　　□共催（共催：豊田市）　　□自主</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="5">令和８年７月４日（土）、11 日（土）10：00～10：25（七夕）
令和８年 12 月５日（土）、19 日（土）10：00～10：25（クリスマス）</td></tr>
<tr><td>開催会場</td><td colspan="5">とよた科学体験館　プラネタリウム</td></tr>
<tr><td>対　　象</td><td colspan="3">乳幼児と保護者</td><td>定　員</td><td>先着各 70　組</td></tr>
<tr><td rowspan="5">予　　算
（事業全体）</td><td>内　　訳</td><td>金　　額</td><td colspan="2">主な用途</td><td rowspan="5">合　計

209,000　円</td></tr>
<tr><td>市費負担分</td><td>209,000 円</td><td colspan="2">講師謝礼（130,000 円）
PR チラシ（11,000 円）等</td></tr>
<tr><td>参加者負担分</td><td>84,000 円</td><td colspan="2">300 円×70 組×4 回
※全額市へ納入</td></tr>
<tr><td>財団負担分</td><td>0 円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>そ　の　他</td><td>0 円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>事業のねらい
（目　的）</td><td colspan="5">ライブ感を活かした特別投映を開催。子育て中の親子のプラネタリウムデビューをお手伝いし、星空の下で親子が触れ合う機会を提供するとともに、今後の新たな顧客を開拓し、利用者拡大を図る。</td></tr>
<tr><td>事業の内容</td><td colspan="5">暗闇が不安な幼児のために、通常よりも明るめ、時間を短めにして投映。
絵本のような可愛らしい星座絵を使った星空解説をする。</td></tr>
<tr><td>事　業　の
広報・ＰＲ</td><td colspan="5">・事業チラシ（財団各施設・館内配布）
・当館の HP、LINE@登録者
・広報とよた</td></tr>
<tr><td>重点視察項目</td><td colspan="5">・興味を持たせた内容となっているか
・対象にあっているか
・体験した参加者の様子</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="5">投映に支障のない範囲で途中退場可。
参加者負担の根拠は１組（参加費大人 300 円＋４歳未満の子ども０円）だが、４歳以上（～高校生）の子の参加費は 100 円。</td></tr>
</table>

公益財団法人豊田市文化振興財団　青少年育成委員会

令和８年度 モニタリング事業 概要

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td colspan="2">科学ふらっときかく展
「さわって学べる昆虫の科学展」</td><td>施設名</td><td>豊田産業文化センター
（とよた科学体験館）</td></tr>
<tr><td>事業区分</td><td>形態別</td><td colspan="3">■受託　　□共催（共催：豊田市）　　□自主</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="4">令和８年７月 18 日（土）～８月 30 日（日）９：00～17：00　※月曜休館
※期間中の日曜日に職員による展示解説（ギャラリートーク）を開催</td></tr>
<tr><td>開催会場</td><td colspan="4">とよた科学体験館　サイエンステラス</td></tr>
<tr><td>対　　象</td><td colspan="2">どなたでも</td><td>定　員</td><td>―　人</td></tr>
<tr><td rowspan="5">予　　算
（事業全体）</td><td>内　　訳</td><td>金　　額</td><td colspan="2">主な用途</td></tr>
<tr><td>市費負担分</td><td>30,000 円</td><td colspan="2">のり付きパネル等消耗品</td></tr>
<tr><td>参加者負担分</td><td>0 円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>財団負担分</td><td>0 円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>そ　の　他</td><td>0 円</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="4">合　計</td><td>30,000　円</td></tr>
<tr><td>事業のねらい
（目　的）</td><td colspan="4">天文、サイエンス等に関する様々な資料を展示したり体験したりすることにより、気軽に科学に触れる機会を増やし関心を高める。</td></tr>
<tr><td>事業の内容</td><td colspan="4">昆虫の「ふしぎ」を科学的に解説する体験展示主体の企画展
標本、生体、写真などの展示。昆虫のしくみ、昆虫の生態について科学的な面から解説、体験も行う。</td></tr>
<tr><td>事　業　の
広報・ＰＲ</td><td colspan="4">・事業チラシ（財団各施設・館内配布）
・当館の HP、LINE@登録者
・広報とよた</td></tr>
<tr><td>重点視察項目</td><td colspan="4">・興味を持たせる内容で安全に体験させているか
・参加者の様子
・参加者とスタッフとの対話</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="4">豊田市博物館企画展「養老孟子と小檜山賢二の虫展」（7 月 11 日～9月 23 日開催）に協力。
展示解説は毎週日曜日（※8/16 を除く）の①10：40～②14：10～の２回開催。</td></tr>
</table>